秋田の子どもの「夢」になる
～大手・中小企業がともにつくる脱炭素形成セミナー～

令和８年１１月１２日　北秋くらぶ
セミナー：２９名　交 流 会：２１名



１部『秋田県への参入企業が考える脱炭素経営とサプライチェーンの未来』

株式会社アルビオン白神研究所　所長　小平　努　様

- サスティナブルは儲からない⇒投資だと思うこと⇒「コストが上がる」ことからスタート。
- 2027 年 3 月から大手企業に対してサスティナブルの情報開示の義務化が順次開始される⇒開示義務を怠った場合や虚偽の記載をした場合、課徴金や罰則の対象となる。
- 取り組みをＰＲすることで会社のブランドになり、大手企業から選ばれる会社になる。
- まずは第１歩を踏み出すことから始まる。

アルビオンの取組み事例

- 育てている薬草の茎など、これまで廃棄していたものを廃棄せず土壌に戻す。
- 耕作放棄地に植えっぱなしで育つ「オギススキ」を植える →固形燃料 →ヒーター、エネルギーになる。

２部『グリチャレ 1000 社が背負う子ども達への責任』

一般社団法人リーズン　代表理事　平野　尚史　様

- カーボンニュートラルを始めたくても何から始めたらいいかわからない、サポートしてくれるところがない、じゃあ、つくろう！　ということからスタート。
- １０年前は異常気象という言葉がなかった。このまま何もしないでいると、自分の孫、ひ孫世代には“昆虫が主食”になる時代がくる、子供たちにそんな未来を残せない。
- 中小企業を何とかしようとしているのは秋田県だけ→カーボンニュートラル先進県になろう。
- **１次データ可視化**は『ダイエット』と同じスタート地点→『まずは現状を測る、数字で知り目標をたてる』



グリチャレの取り組みを多くの企業に知ってもらいたい

リーズンの取組み事例

- 会社の断熱を 2 倍にし、夏は夜中に窓を開けておく
- 出張の際はできるだけ１台の車で来るように時間を合わせる

「こんな小さなこと？」ではなく、「できること」から始める意識

県内・食品製造業（秋田県ＳＢＴ取得 第 2 号）の取組み事例を紹介

- ＣＯ2 排出量を可視化し、結果的に節約になり、大手企業からも選ばれるようになった。
- 2024 年より使用電力の 100％をクリーンエネルギーに変更し、ＳＢＴ目標より 5 年前倒し 2025 年に達成。
- カーボンニュートラルは「金がかかる」のではなく、**ちゃんとやったら節約になり、利益も出せた。**

ＣＯ2 排出量
可視化ダッシュボード



一部工場の化石燃料暖房を
電気空調に置き換えたことでも、
半年間でマイナス 33.46%削減

自社でコントロールできない Scop3

Scope1	自社：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)
Scope2	自社：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
Scope3	他社：Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

中小企業の排出量が Scope3 で大手企業の成績に反映される！

なぜ１次データが必要なの？

- 二次データ（平均値）だと Scope3 には反映されない。Scope3 には一次データ（実数値）が必要。
- どの工程やサプライヤーから多くの排出があるか（ホットスポット）を正確に把握できる。
- 2027 年３月　環境省が「一次データを活用したサプライチェーン排出量算定ガイド」を策定。
- 大手グローバル企業や取引先から「Scope3 排出量の正確なデータ」を求められるケースが増えている。

質疑応答

- ✓ ＳＢＴ認証取得のメリットがわからない→目標を掲げるだけでポイントになる→選ばれる。
- ✓ 実際は削減になってなくてもいいの？→結果として“掲げただけ”の結果にみえても、意識するとしないのでは大きく違う→大きく削減できなくても可視化してみると努力した結果がわかる。
- ✓ ＩＳＯは何の意味もなかったと感じているが・・？→
- ✓ 本当に必要なの？ＳＤＧｓは宣言だけ、何もしていない？→

そう思われるのも仕方ない部分もあり、
ある意味マネジメントシステムが独り歩きしていたかもしれませんね。
それほど難しいテーマでもあります。

- ✓ そんな「今」だから手をつけるのが重要。
- ✓ いきなりＳＢＴ取得ではなく、**「脱炭素への取り組み」そのもの**が、結果的に利益に結び付く。
- ✓ 大手の具体的対応は？→１次データ作成に２～３百万かかるが、やる価値はあると思っている。

意見・感想

- 2007 年 Scope3　大企業は数値を出さないといけなくなることと、中小企業が関係することがわかった。
- 中小企業皆でやって選ばれる企業にならないと、可視化しないと大手企業から選ばれなくなる。
- 具体的に何をすればいいのか、これまでも取り組んできたＣＯ2 削減を、可視化できることは理解できたが、かなりコストもかかるため、すぐ行動にうつせるかどうか検討の余地がある。
- 「アキタグリーンリンクチャレンジ」の設立経緯、活動内容について、知ることが出来た。
- 全国で初という中小企業を対象とした『民間主導』プロジェクトを立ち上げたメンバーの熱意がすごい。

セミナー終了後は、講師お二人を囲んで、交流会を開催しました。

交流会に参加してみませんか？

異業種交流ができるのも
大きなメリット！
普段接点のない異業種との出会いがあります♡





東北電力ネットワーク
大館営業所長・長谷部様に、
【ハチ公８本締め】のやり方
を伝授され、大盛り上がり